

マヤン・ポンカイ村の状況についての報告書

2004年7月1日

弁護士 河村健夫

第1 マヤン・ポンカイ村の概要

マヤン・ポンカイ村は、スマトラ島リアウ州カンパル県タブン郡にある村の一つである。コトパンジャンダム建設に伴って、1995年ころより旧ポンカイ村の村民たちが移住して形成された。旧ポンカイ村と新村との間の距離は50キロメートル以上とのことである。

村の人口は移住当初で既に540世帯であり、その後家族の成長などにより世帯数は約2倍に増加しているとのことである。そのほとんどがアブラヤシ(パームツリー)栽培で生計を立てている。

村には、村役場・村長宅・学校・モスクなどの施設が存在している。参照のため、移住当初に作製された地図を添付する。

第2 調査の概要

6月26日午前10時から午後2時ころにかけて、原告代理人河村健夫において、マヤン・ポンカイ村に赴き、調査をおこなった。

同行者は、日本から通訳として坂井美穂、調査補助者として山口兼男、現地からKBH リアウ所属の弁護士アリ・フシン・ナスティオン及び同ヘンドリシアほか8名の、合計10名であった。

同調査では、当職らが同村の現村長であるアリ・ムリ(ALIMURIN)氏、及び前村長のナラウィ(H.NAHRAWI)氏、ニミック・ママ(慣習法指導者)であるバシルミ氏などから、村落移転前後における同村の状況、移転後におけるアブラヤシ栽培の状況などを聞き取る方法により行われた。聞き取り場所は添付地図区画番号303(黄色に塗られている場所)の家屋である。



(聞き取りを行った場所(添付地図303の家屋))

第3 調査結果

1 アブラヤシ栽培によって得られる経済的収入について

- (1) アブラヤシ栽培については、SAPS の記載によれば「マヤン・ポンカイでは主な所得源がパーム油耕作である。その年収は2900万ルピア。つまり、ゴム農園(2 ha)の所得よりだいぶ多い」(SAPS4・1・4 所得発生活動)「所得が他の移転村すべてと比較して高いレベルに安定している」(同4・5・4 所得発生事業)などになっており、かかる記載からはマヤン・ポンカイ村は経済的に成功した村であるかのような印象が与えられる。
- (2) そこで、前村長であり、自分自身も2ヘクタールのアブラヤシ農園を所有するナラウィ(H.NAHRWI)氏、及び現村長のアリ・ムリ(ALIMURIN)氏、ニミック・ママ(慣習法指導者)であるバシルミ氏などから事情を聴取した。
- (3) その結果、①アブラヤシ畑からの収入については平均して2haあたり月額150万ルピア程度、年間では2000万ルピア程度であること②移転前の州政府による説明ではアブラヤシ農園は無償で譲り渡されるという話であったが、実際には9年のローンによる有償譲渡に過ぎなかったこと③ローンの徴収方法は収入金額の30%となっており、負担が重いこと④月額150万ルピアの収入があったとしても、ローン30%分として45万ルピア、肥料第20万ルピアなどを差し引くと、せいぜい85万ルピア程度の実収入にしかならないこと⑤収穫したアブラヤシについて販売先が限定されており、かつ、販売価格は販売先である PTPN 社によって一方的に設定されていること、などが明らかとなった。

2 アブラヤシの栽培環境について

- (1) SAPS によれば、アブラヤシの栽培環境については「プランテーション用の道路についていえば、移住した家族の多数がこれを高く評価してはいない。いくつかのケースでは、村でのヒアリングによれば、道路がまったく存在しない。極端なケースでは、貯水池をボートで横切り、さらに徒歩でプランテーション区域に行かなければならない」と記載されており(SAPS3・2・3の(5)h)、SAPS の調査でさえ、アブラヤシの栽培環境は良好とはいえないことがうかがえた。
- (2)そこで、上記の村落指導者らに対し、アブラヤシの栽培環境について聞き取りを行った。
- (3)その結果、アブラヤシの栽培耕地は村落の周辺に広がるが、居住している家屋からは近い人で約2, 5キロメートル、遠い人になると9キロメートルの距離があり、バイクや自転車を所有している人はそれで耕地まで通うが、所有していない人は徒歩で耕地まで通わざるを得ないという実態が明らかになった。



(マヤン・ポンカイ村からアブラヤシ耕作地までの道のり)

3 アブラヤシ栽培の他の収入源について

- (1) SAPS によれば、マヤン・ポンカイ村の収入源がアブラヤシ栽培に依存しており「これらの村に見られるモノ・カルチャー(単作)の傾向は是正を要するかもしれない」と懸念を示した上で(SAPS3・2・5の(2))、これらの村については「民間企業の技術指導によって家禽生産を行っていた」とする(SAPS4・5・4の(5))。
- (2)そこで、上記の村落指導者らに対し、モノカルチャーの現状について聞き取りを行った。
- (3)その結果、①マヤン・ポンカイ村では養鶏場など家禽生産の設備が建設された

ことはなく、相変わらずアブラヤシ栽培による収入に頼っていること②アブラヤシの販売先はローン支払期間中は PTPN 社に限定され、ローン支払期間終了後も事実上 PTPN 社しか販売先がないこと③販売価格は PTPN 社によって一方的に設定されていること④アブラヤシの販売価格には変動があるから収入の予測がつきにくいこと、などが明らかとなった。

3 その他生活環境について

- (1) SAPS によれば、マヤン・ポンカイ村は収入が多額であるほか、水源についても問題がないとされ(SAPS4・4・2 水供給システム)、生活環境が良好であるかのような印象を与える。
- (2) そこで、上記の村落指導者らに対し、生活状態全般について聞き取りを行うとともに、住民らの家屋などを視察して現状を確認した。
- (3) その結果、①移住に際して支給された井戸は濁っている上に水量が不足しているため放棄されていること②家屋の屋根はアスベストがむき出しとなっており、健康被害が懸念されること③移住当初支給された家屋は立て付けが不完全な急造家屋で、すでに居住に絶えず放棄されている例も多いこと④マヤン・ポンカイ村には旧ポンカイ村からの移住者の他、ジャワからの移住民世帯が混住しており、住民同士の摩擦も生じていることなどが明らかとなった。



(放棄された政府支給の家屋。壁板の隙間から光が漏れている様子がよくわかる。また、床は土間形式であり、湿気を防ぎようがない様子もよくわかる)



(政府支給の井戸の前に立つ前村長ナラウィ氏。この井戸は現在使われていない)



(政府支給の井戸。底にごく浅くしか水がなく、到底使用に耐えない様子がよくわかる)



(政府支給家屋を紹介したFIRDAUS氏)



(FIRDAUS氏が自力で作成した井戸。政府支給の井戸が役に立たないため、自費で井戸を掘ることを余儀なくされた)



(FIRDAUS氏の家屋の屋根。白く波状に写っているのはアスベスト)

第4 添付資料

上記を裏付ける資料として、(聞き取り報告書)及び地図を添付する。

聞き取り報告書

聞き取り日時：2004年6月26日

聞き取り場所：マヤンボンカイ村【家屋番号303】

聴取者：弁護士河村健夫（通訳人坂井美穂）

聴取対象者

- 1 H. NAHRAWI ナラウイ（前村長）
- 2 ALIMURIN アリ・ムリ（現村長）
- 3 バシルミ（ニミック・ママ、慣習法指導者）

（河村）

地図があれば地図を見せてください。今、私たちにいる家屋はどこになりますか。

アリ・ムリ：移転当時支給された地図ならばあります。この家屋は地図の番号で言うと、303番になります。

地図には家屋が記載されていますが、アブラヤシの耕作地はどこになるのですか。

アリ・ムリ：地図には記載されていません。家屋の周りがアブラヤシの耕地になります。

家屋からアブラヤシの耕地まで、どのくらい離れているのですか。

アリ・ムリ：近い人で2キロほど、遠い人だと9キロ程度の距離があります。私はバイクに乗って通っていますが、そのような手段を持たない人は歩いて耕地まで通っています。アブラヤシの耕作用具や肥料を持って長い距離を通うのは、とても大変なことです。

一世帯あたり2haのアブラヤシ農園が支給されたそうですが、2haにはアブラヤシが何本くらい植えられているのですか。

アリ・ムリ：およそ200本程度です。ただし、成長が止まった樹木を取り除いて、新しい樹木を植えたりしているので、正確に200本あるというわけではありません。

2haのアブラヤシ農園からは年間いくらの売り上げがありますか

アリ・ムリ：アブラヤシの買い取り価格にもよりますが、現在のところ大体一月当たり150万ルピアです。移転から年月がたち、世帯数自体も増加していますので、2haとはいっても、家族が増えた人は苦しい生活でしょう。

アブラヤシ農園は、ローンつきで支給されたと聞きましたが、その実態を教えてください

アリ・ムリ：売り上げの30%を納めるという契約になっていました。

ローン以外で、アブラヤシ農園に定期的に必要な出費はありますか

アリ・ムリ：肥料代が月に20万ルピアほど、最低限でもかかります。

そうすると、月に150万ルピアの売り上げがあったとしても、手元に残る手取り収入は

それほどでもないということですか。

アリ・ムリ：そうです。先ほど述べたとおり、仮に150万ルピアの売り上げがあったとしても、ローン30%分として45万ルピアが消え、肥料代として20万ルピアを差し引くと、計算上でも残額は85万ルピアです。移住してからかなりの期間が経過し、もともとは2haで一世帯を養っていたのが、数世帯を養わなくてはならなくなってきました。昔ならば、タナウラヤット地を新しい世帯に配分することなどが可能でしたが、移住してからはそういうわけにもいかず、世帯数が増加した場合は相当苦しい生活状態です。

収穫したアブラヤシの実はどこに売っていますか。

ナラウィ：PTPNという企業に販売しています。他の企業に販売することは禁止されています。

契約書か何かに独占的販売についての記載はありますか

ナラウィ：移転合意書の中に、そういった条項があるかもしれません。それ以上はよくわかりません。移転するときに、そのような決まりになっていると説明されました。

買い取り価格は、どのようにして決定されるのですか

PTPNが決めます。市場価格とは微妙にずれがありますが、どうしてそのような価格になるのかはわかりません。

売り上げの中から30%のローン支払いを行わなければならないと知ったのはいつですか。

ナラウィ：移転してからです。移転後に、県知事から説明がありました。移転前には無料で支給されるという話でした。

村人は、約束と違ってローンを払わなければならないと聞いて怒りませんでしたか？

ナラウィ：もちろん、そうです。住民たちは1998年に政府や、県庁にデモを行いました。しかし、その結果は、まったく事態が改善されていません。

ローンが30%であるということについての契約文書は手元にありますか

ナラウィ：手元にはありません。そういった記録は県庁にあるのかもしれませんが、私たちは見ることはできません。

ここに移転する前の、政府の説明はどのような内容でしたか

ナラウィ：ここに移転すればよくなる、楽になるという話でした。アブラヤシは収穫可能と言われた。県知事も来て、同様の説明をしていきました。

村には、家禽の養成施設、例えば養鶏場のようなものはありますか

アリ・ムリ：家族が個人的にニワトリを飼っていることはありますが、養鶏場といった施設はありません。

収入源の点で、困ったことはありませんか

アリ・ムリ：アブラヤシしか収入がなく、その価格も自由に決められないので、その点が一番困ります。

聞き取り日時：2004年6月26日

聞き取り場所：マヤンポンカイ村【放棄された政府支給住宅】

聴取者：弁護士河村健夫（通訳人坂井美穂）

聴取対象者

- 1 H. NAHRAWI ナラウィ（前村長）
- 2 ALIMURIN アリ・ムリ（現村長）
- 3 バシルミ（ニミック・ママ、慣習法指導者）

この住宅は、現在人が住んでいませんね。

アリ・ムリ：移住当初政府から支給された住宅ですが、現在は人が住んでいません。

なぜ、居住が放棄されているのですか。

アリ・ムリ：壁を見てください。隙間だらけで、そのままではとても人が住める状態ではありません。また、床を見ればわかるように、土がむき出しの土間形式で湿気を防ぐことができません。自分で直しながら住んでいる人もいますが、出費も相当かかります。

（その後、家屋の外に出て、井戸を視察する）

ナラウィ：この井戸は、政府が移住当時支給したものです。しかし、水質が悪く濁った水しか出ない上に、乾季になるとかかれてしまうので、現在は使っていません。

（井戸にはつるべなど水を汲む道具がまったくなく、たまっている水も浅くゴミだらけであって、使用されていないことは明白であった）

聞き取り日時：2004年6月26日

聞き取り場所：マヤンポンカイ村【FIRDAUS氏の住宅】

聴取者：弁護士河村健夫（通訳人坂井美穂）

聴取対象者

FIRDAUS フィルダス氏

この家は、移住当初に政府から支給された住宅ということですが

フィルダス：そうですが、私自身で修理や改築を行い、広さは3倍程度になっています。

支給当初の状態のままになっている部分の天井を見せてください

フィルダス：ここがそうです。白く波状に見えるのはアスベストを使用している部分です。

アスベストがむき出しになっていると、剥離したアスベスト片を吸い込んだりするなどして健康被害が出ることを知っていますか

フィルダス：知っていますが、しかたがありません。

生活に使用する水は、どこから手に入れているのですか

フィルダス：政府から支給された井戸はまったく使い物にならなかったため、私が高額を投じて新しい井戸を掘りました。

（家屋の台所脇にある井戸を案内して）

これが新しい井戸です。普段はモーターを使用して水をくみ上げる方式にしています。新しい井戸にしてから、水浴びのときに体がかゆくなるようなことはなくなりました。

電気代は月にどれくらいかかりますか

フィルダス：15万ルピアほどかかります。移住当初は4万から5万ルピアだったのですが、2年前に値上げされてしまい、かなり高い出費を強いられています。

暮らし向きは、移住前に比べて豊かになりましたか

フィルダス：アブラヤシの価格によって収入が決まってしまうし、ローンの負担も大変でした。こんな生活になるくらいなら、移住をしなかったと思います。生活が豊かになっているという内容の報告書があると聞きましたが、とんでもないというのが実感です。